

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

2019. 8  
No.349

ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています

## Contents

モザンビーク・サイクロン被災者支援  
緊急募金の支援報告

チャイルドサポーター活動報告  
バングラデシュ・マチュパラ地区  
世界食料デー大会ポスター完成  
名古屋大会の取り組み紹介

バングラデシュで栄養改善に取り組む母親 (P.4)

南半球で過去最大のサイクロン「アイダイ」による河川の氾濫で、モザンビークの死者は、4月3日の時点で598人に及びました。被災者に対する緊急支援の呼びかけに応じて頂いた募金は、主として以下の支援に充てさせていただきます。

### 非営利団体「マンゴツリーキッズ」

2004年8月31日に設立

ソファアラ州ムササ、マファンビッシで、孤児や子どもたちに対して教育と保健活動を実施。

創設者はアデリーノ・セメンテ(元 JIFHの里子)



アデリーノは「里子だった時の支援者が教育支援をしてくれたお蔭で今の僕がある。僕は助けられたので今度は僕が他の人を助け、その人の祝福になりたい。特にこの国の次世代の若者たちの助けになりたい」と語っています。

彼は2003年にホームレスの子どもたち(ほとんどが孤児)を集め、マファンビッシのマンゴの木の下で、彼らに英語を教え始めました。数ヶ月後、パウラ・キンタス・ノブレガの助けでチームを結成。コミュニティを動かして、子どもたちや高齢者、障害者の支援を開始しました。

現在は400人の子どもたちを支援しています。この数年間で1,000人にも上る親のいない子どもたちに居場所と安心を与え、彼らの人生に大きな影響を及ぼしてきました。「マンゴツリーキッズ」で子どもたちは、しっかりとした価値観を学び、また模範となるモデルがいるため、豊かな人生を生きるチャンスに巡り合うことができます。

### 州政府からの支援がなく本当に助かります

アデリーノは「サイクロンによって、教室を含む建物が破壊されてしまい、子どもたちの安心できる場所がなくなって多くの人が悲しみの中にいます。州全体が被害に見舞われたために、州政府が私たちの助けなどできない状況です。センターを復興する資材もなく、通常の授業や給食などをすることが困難です。この働きを長年に亘り支援してくれた地元の製糖工場も打撃を受けたため、毎月のサポート



サイクロンにより屋根がなくなった園舎

を送金できないと言われました。学校再建に必要な支援をいただければ本当に助かります。」と語っています。

### マンゴツリーキッズへの支援内容

- ①給水タンクの購入及び設置費用とポンプ代、塀の修理
- ②教室と集会場の建設資材購入  
(屋根のトタン、建物のセメント、木の柱、くぎ、ワイヤーなど)
- ③その他の建物の屋根のトタン
- ④新しい冷蔵庫、ガスストーブ、台所用品
- ⑤子どもたちの給食支援、学校用品

またハンガーゼロは、FHモザンビークを通してすでに食料配給、衛生キットの配布、給水支援を行い、また国連のコレラ感染予防の集団予防接種の支援を行っています。あらためて報告致します。



FHモザンビークは、サイクロン被災者への緊急対応として政府、WFP、ユニセフと協力して、ソファアラ州ペイラ市で約1,200世帯に食料を配給しました

### サイクロン緊急募金のご報告 2,396,743円

2019年7月20日現在。 ※募金の受付は終了しております。皆様から温かいご支援を賜りありがとうございます。



中央にアデリーノ(背景は被災前の園舎)

# 西日本豪雨災害から1年の 倉敷市真備町を再訪

～ハンガーゼロ緊急支援班・伊東綾～



## 地域住民の交流の場「まびくら」

昨年の西日本豪雨の支援活動に入らせて頂いた倉敷市真備町を、7月13日に訪問しました。豪雨から1年が経過した、岡山キリスト災害支援室(岡キ災)の活動を一緒に振り返りました。岡キ災は、昨年12月にオープンした「まびくら」を拠点に『子ども・仮設・居場所づくり』を3本柱として活動、地域の方々がイベント



岡キ災のこれまでの取り組みを聞く出席者

ごとに「まびくら」を訪れています。また7月5日から8日には、同じく豪雨被害があった広島県呉市を森祐理親善大使が訪問、歌声とトークで「心の救援物資」を届けてくださいました。

▼災害支援セミナー セッション1



## 災害支援セミナー ～その心得と実践～



2016年の熊本地震の後も、2017年九州北部豪雨、2018年西日本豪雨がありました。先月初旬の九州南部を覆った大雨も、甚大な被害にはならなかったものの、あと2、3日雨が降り続けたならば、どのような状況になっていたか分かりません。

近年の度重なる自然災害は、いつでも、だれもが遭遇するものです。「その時」の行動や準備を事前に考えておくことが重要ですが、「では何から始めれば良いのか分からない」というのも事実です。

そこで今までの災害支援の経験を生かし、「クラッシュ・ジャパン」、「オペレーション・ブレスリング・ジャパン」、「ハンガーゼロ」の3団体による、災害支援に取り組むためのセミナーが、7月11日に御茶ノ水クリスチャンセンターで行われました。このセミナーは3つのセッションに分かれており(下記参照)段階的に、ワークショップも交えて学べる構成になっています。多くの方がセミナーに参加していただき、以下のような感想を下さいました。(報告・伊東)

### セミナー参加者の声・・・

- 色々勉強になった。多くの人に伝えていきたい。こういうセミナーが各教会で行われて欲しいと思う。
- マクロで災害概要を知ることができた。“被災ケースのいろいろ”についての説明を役立つものだった。
- 教会の認識(防災・災害支援への)を高める必要である。
- データを出してくれて良かった。これが現実起こった事実だと知り、今後の対策、防災の重要性をもっと各教会に伝えたいと思った。
- 災害は忘れなくてもどんどんやってくると改めて思いました。だからこそ他人事ではなく自分ごととして受けとめ、避難所でも「お客さん」はいないこと、共有する必要があります。と思っています。

次回は**セッション2** 2019年9月3日(火)  
詳しくは東京事務所・伊東まで



「災害支援セミナー～その心得と実践～」は3つのセッションに分かれています。

セッション1	セッション2	セッション3
 1.災害支援活動に携わる教会 永井敏夫(クラッシュ・ジャパン) 2.災害の種類と概要 山田智朗(クラッシュ・ジャパン) 3.教会ネットワークの必要性 山尾研一(クラッシュ・ジャパン) WEB受講も可能 3講義構成(全4時間)です	 ボランティアベース運営 1.googleアカウントの活用 2.ボランティア受け入れ実践 伊東綾(ハンガーゼロ) 講義1はPC経験3年以上必要 wi-fi環境必須 実技講義のため講師が出張します 180分×2講義構成です	 1.ワークリーダーの心得 弓削恵則(オペレーション・ブレスリング) 2.支援者に対するケア 永井敏夫(クラッシュ・ジャパン) 実技講義のため講師が出張します 2講義(全4時間)構成です



# 貧困からの卒業をめざして



**チ**ャイルドサポーターの活動は、世界の飢餓や貧困に苦しむ地域に住む子どもが、子どもらしく健やかに成長できるような地域づくりを現地の国際飢餓対策機構と推進しています。最終的には地域が、貧困から卒業することができるようになることを目指しています。以下に2018年10月～2019年3月にマチュパラ地区で行われた主な活動のご報告とサポートチャイルドの声をお届けします。



## 貯蓄グループ

貯蓄グループに所属しているメンバーたちは、グループ内で貯蓄されたお金を少ない利子で借りることができるため、リキシャ（人力車）や食用の鳥・家畜の購入、食料品店を開く資金、家の修復などにお金を借り、収入向上をはかっています。

## 保健活動

120人の母親リーダーたちが、妊産婦と新生児のケア、医療機関受診について、離乳食、授乳、呼吸器の病気、衛生習慣について学び、さらに学んだ母親たちが近隣に住む720人の母親たちに伝えました。最終的にはコミュニティ全体が妊産婦と新生児のケアについて関心を持ち、予防接種や医療を受けたり、バランスの良い食べ物の摂取や衛生習慣を実践できるように目指します。FHはさらに下痢、黄疸、コレラ、赤痢の予防、HIVエイズについての講義、虫くだしプログラムの実施などを行いました。



## 教育

就学前の児童センター

FHにより訓練を受けた教師が、遊びなどを通して児童の就学に向けての準備を行いました。

## 子どもクラブ

6～12歳の子ども266人が2ヶ月に1回の子どもクラブに参加して、学校の授業の補習を受け、家族の手伝いや、年配者に対して敬意を払うこと、価値観についての学びなどをしました。



## 青年クラブ

13～18歳までの21人の青年たちが参加し、価値観や倫理、児童労働や早期結婚についての学びをしました。その結果、青年たちは教育の価値を理解し、学校を休まずよく勉強をするようになりました。





マチュパラ地区は2020年12月で卒業をむかえます  
新支援地の情報は2020年6月にお知らせ致します



シャディン ビスワスくん（写真左端）は父親、母親、妹、弟と一緒に暮らしています。

父親は自分の土地を持たないため、日雇い労働者として他人の土地で働いていますが、1日の賃金は400タカ（500円余）です。しかも仕事は収穫時期によって左右されるため、安定していません。

### 経済的な問題

父親の1ヶ月の収入では家族を十分に養うことができません。学校に通っているシャディンくんや妹が進級する度にお金が必要となり、両親は学用品を買うことが困難でした。また学費を払うことができない時もあり、必要な本を買うこともできませんでした。

### FHのサポートとその結果

まずシャディンくんの母親がFHの貯蓄グループに2012年から参加しました。次に、シャディンくんがチャイルドサポーターに登録され、サポートを受けられるようになりました。母親は牛を購入し繁殖させて売るために貯蓄グループからお金を借りました。母親はシャディンくんの勉強を助け、勉強を続けるように彼を励まし



した。サポートチャイルドであったシャディンくんは、FHからいくらかの学用品のサポートをもらいながら、学校に通い続けることができました。

シャディンくんと家族は、FHのさまざまな活動に参加し、また保健について学ぶ機会も与えられました。母親はリーダーシップや収入向上のためのトレーニングなどを受けながら多くのことを学び、勇気づけられました。また裁縫や家庭教師をしながら家計の収入向上に貢献をしています。シャディンくんも、勉強の成果を上げることができました。

### シャディンくんと母親からのメッセージ

「僕（シャディン）は、FHの家族の一員に加えられて、本当に幸せです。また僕を応援してくれる人がいることを誇りに思います。FHスタッフにはとても感謝しています。」

母親は「私と家族は、いつまでもFHのサポートを忘れません。多くのトレーニングを受ける機会が与えられ



て、私たちにとって大きな助けとなりました。また私自身の生き方も変わって、子どもたちや家族全体の生活を改善させることができている。」



2020年3月

～約10日間～

バングラデシュ  
スタディツアー

まもなく募集開始

サポートチャイルドに  
会うこともできます



[開催期間 9月~11月]

# ちきゅう大家族の一人として ハンガーゼロに取り組もう！

▼2019WFDポスター

皆さんの今朝の食卓にはどんな物が並んでいたでしょうか。ご飯、焼き魚、納豆、味噌汁の和食？それともパン、卵、フルーツ、ヨーグルト、コーヒーなどの洋食でしたか。脳と身体を動かすためにも、朝食を食べることが大切といわれています。朝食だけではなく日本では様々な食品が出回っていますが、私たちが食べている食べ物で、日本国内で生産されている物はどれだけあるのでしょうか。日本の食料自給率は38%（カロリーベース）です。残り62%は海外から輸入しています。

一方で私たちは1年間に2759万トンの食品を捨てています。そのうち食べられる部分と考えられる量は、643万トン。その量は世界で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量（2017年で年間約380万トン）の1.7倍に相当します。

## 恩恵を受けながらも捨てている現実

家庭で食べ残したり、過剰に除去したり、直接捨てたりしたものは291万トンに及びます。私たちの食生活は世界から多くの恩恵を受けているのに、それを捨てているのです。（資料：農水省：2017年度食料自給率、食品廃棄物等の発生量2016年度推計）。

今も飢餓人口は8億1500万人。同じ地球に住む家族9人のうち、1人が飢餓や栄養不足で苦しんでいることになりま。食べ物のない人たちのことを考える必要があるのではないのでしょうか。

2019年食料デーのテーマは「ちきゅう大家族」。家族の中でお腹をすかせているその1人があなただとしたら…。私たちは、9人家族のうち食べ物のある8人の側に立っています。おなかをすかせている1人の家族のために、何ができるか、一緒に考えましょう。



## 2019世界食料デー「1食募金」の主な募金先

- ① インドネシア：母子栄養改善
- ② コンゴ民主共和国：地域開発支援、地域リーダー育成
- ③ ケニア：学校トイレ・貯水タンク支援
- ④ フィリピン：地域開発支援、地域リーダー育成

世界食料デー告知のための  
インスタキャンペーン  
#ちきゅうFood  
ぜひ投稿で参加してね！



## 来会者を増やしたいと準備に奮闘中

関東地域で3番目の食料デー大会となる横浜大会は、昨年からはじまりました。短い期間しかない中での準備でしたが、当日は100名近い方々が世界の現状に耳を傾けてくださいました。今年はもっと多くの地域の人たちに足を運んでもらい、様々な角度から世界について知る機会を提供しようと早くから準備に奮闘しています。

今年は、10月12日(日)、横浜市栄公会堂で行われます。



第1回はゴスペルコンサート形式で開催



第1回 横浜大会



ジェローム・カセバ  
コンゴ民主駐在員



小西小百合  
ボリビア駐在員



アンドレア・ダンツ  
FHJプロジェクトマネージャー



ナイトdeライト  
ハンガーゼロ親善大使

## 世界食料デー名古屋大会 「子ども絵画コンクール」を 通じて日々食べられることの 感謝を描く子どもたち

世界食料デー名古屋大会では、「世界食料デー子ども絵画コンクール」を併催しています。東海地区の子どもたち（年長から小学生）が世界の飢餓、食料廃棄などの問題を知り、「いただきま〜す!! きょうもたべものありがとう」のタイトルに合わせて、日々食べられることの感謝を絵に描いてもらうという企画です。去年は25団体（幼稚園・保育園・絵画教室）計825名の子どもたちの作品のご応募をいただきました。

今回子ども絵画展に出展してくださる名古屋YWCAで、世界の食べ物と日本の関わりや、世界の飢餓、食料廃棄の問題などについてお話をさせていただきました。

「僕たち、いろいろな国から買った食べ物をたくさん食べて、捨てちゃってるんだ〜…」「もったいないね…」と、つぶやきながらお話を聴いてくれた子どもたち。これからどんな世界になったらいいと思う?と問いかけると、「公平な世界!」と口々に答えてくれました。

### 感謝が思いやりの心を育む

その後先生からメッセージをいただきました。「食べ物を輸入しているフィリピンのことを思って世界地図を二つ描いた小3女子や、“美味しくて涙が出ちゃう絵”を描いた小3男子。カレーの絵を描きながら、それぞれが家庭のカレーの具を発表し合ったり、と温かい時間の流れる絵画の時間でした。家族で囲む食事が当たり前でなく、幸せなのだという事に改めて気づかされました。」

「いただきま〜す!!」の絵一枚一枚には、それぞれの子どもの感謝の心が描かれています。その「感謝の気づき」が世界の人々を思いやる心をたくさん育て、成長していくて欲しいと願います。絵画展は下記の日程で開催されます。ぜひご来場ください。（報告・愛知事務所アム絢子）



### 世界食料デー 子ども絵画コンクール「いただきま〜す!!」展

展示期間：9月10日(火)～15日(日)10時～18時（最終日のみ17時まで）

展示会場：名古屋市民ギャラリー栄

（名古屋市栄・中区役所朝日生命共同ビル7階・第3展示室）

#### 【お問合せ】

ハンガーゼロ（日本国際飢餓対策機構）愛知事務所

TEL 052-265-7101 Email : aichi@jifh.org



昨年の名古屋大会での表彰式



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。



### 人気のポシェットに新シリーズ 斜めがけできます!

★スマホや500mlペットボトルが入ります。

1点1,200円。(税・送料込1,400円)でポストにお届け。

※ハンガーゼロ会員&チャイルドサポーター特典:2点同一ヶ所へお届けの場合は、送料無料(会員番号をお知らせください)

※商品は1点物のため色、デザインはおまかせ下さい。

※3点以上お求めの場合は宅配便運賃でお届けになりますのでお問合わせ下さい。



お支払い:後払い

お申し込み:(株)キングダムビジネスで検索/スマホはQRコードから

電話注文:06-6755-4877

### 今年もあなたのサポートチャイルドへクリスマスカードを送りませんか

翻訳作業の都合上、**2019年10月31日(木)を締め切り期日**とさせていただきます。

11月以降もクリスマスカードの受付はいたしますが、クリスマス

までにお子様の手元にお届けできない場合がございますので、ご了承ください。できるかぎりお早目に事務局までお送りください。(尚、プレゼントの同封はご遠慮ください。また寄せ書きのお名前にはフリガナをお願いします)

### 東京で第2回目の チャイサポハロハロ

現地の人たちの生活を見聞きしてきたスタッフによる活動報告です。カンボジアのチャイルドをサポートして下さっている親善大使紫園香さんのミニフルーツコンサートもあります。お楽しみに。

◆8月18日(日)午後4時半~6時

会場:キリスト教 朝顔教会  
世田谷区松原2-29-19

参加費:500円

申込み:ハンガーゼロ東京事務所

電話:03-3518-0781

メール:tokyo@jifh.org



### 書き損じ「はがき」で 国際協力!

「年賀状」の書き損じたものやポストに未投函のもの(通常はがきや古い年賀状でもOK。但し書き込み、汚れは不可)がありましたら、大阪事務所までお送りください。切手に交換してハンガーゼロの活動に使わせていただきます。また未使用の切手(記念切手も含む)も大歓迎いたします。

2019年1月~6月集計

●書き損じはがき 197,422円

●未使用切手 79,320円

ご協力感謝いたします。

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>

eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)

フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構

②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1  
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155  
東京(広島) 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782  
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F  
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132  
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号  
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216  
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

### メルマガ、LINE登録をしませんか

ウェブサイトから募金をしてくださいました方や希望される方に月1回メールマガジンを配信中です。ハンガーゼロニュース記事やチャイルドサポーターからのお知らせ、イベント情報などを配信しています。配信を希望される方は、ホームページから<https://www.jifh.org/mail/>にアクセスして登録をお願いします。

チャイルドサポーターではLINEの友だち登録も募集中。QRから。



※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

### サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ	
(TEL)		
住所	〒	
申込日	年 月 日	NL 349号

<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月( )円 □(500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送ってください。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送ってください。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在...46130



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター